

2021 年 3 月 4 日 5 日改訂 17 日再訂

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 31

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

補遺 27 の付記 4・5 において 1910 年代に刊行された『幼学故事瓊林』に付加された中国の近代的領土情報の特徴について検討し、行政区分一覧にはチベット、外モンゴルが含まれないこと、それが民国 3 年（1914）の「中華民国行政区域表」に対応していること、掲載された中国地図にはおいてはマンチュリアとトルキスタン（新疆）も描かれず、直省の範囲のみが記述されていることを指摘した。そのうえで海洋への関心の高まりは見られるが、東沙諸島の情報も西沙諸島の情報も一切提示されていないことを確認した。

最近、言語文化研究所では 1914 年に上海のイギリス人が刊行した下記の中国地図を購入した。

Edwin G. Dingle & H.G.Fruin. 1914. *The Map of China* 『中華全図』（in English & Chinese）. Shanghai: Far Eastern Geographic Establishment

“Compiled from the latest and most authentic surveys by the Far Eastern Geographic Establishment, Shanghai”とある。翌年にはこの地図に掲載された地名の索引が出版されている。

Ridge, W. Sheldon (William Sheldon). 1915(January). *Index to the New map of China*. Shanghai : Far Eastern Geographical Establishment.

Ridge, W. Sheldon (William Sheldon). 1915(March). *Index to the New map of China 2nd ed.* Shanghai : Far Eastern Geographical Establishment.

いずれも慶應義塾大学三田メディアセンター所蔵

1915 年 1 月に初版が出され、同年 3 月に早くも改訂版が出されている。初版では Main Index に Note to the Index と Supple Index が付加される形であったが、改訂版ではこれらの追加情報が Main Index に統合されたようである。さらにこの地図情報が下記の経済地図アトラスに盛り込まれている。

Edwin John Dingle(Far Eastern Geographical Establishment) ed. 1918?* *The new atlas and commercial gazetteer of China : a work devoted to its geography &*

resources and economic & commercial development 『最新中国商業政治地理大全』
2nd ed. Shanghai, China : North-China Daily News & Herald

慶應義塾大学三田メディアセンター所蔵

*刊行年の記載はなく図書館の付した書誌情報による。序文によると 1917 年夏には編纂作業中であつたことが知られる。書中の統計類を瞥見すると、1917 年までのデータが掲載されているようである。

この『中華全図』が 1910 年代の半ばの中国の地理に関する標準的な情報を世界に提供していたのではないと思われる。Index の最後の 2 頁は The outer territories にあてられており、"The outer territories of China, formerly Dependencies – a name no longer appropriate now that China has become a Republic, are Tibet, Sinkiang, Mongolia and Manchuria."とある。しかし、『中華全図』にも Index にも The outer territories に関する具体的情報は載せられていない。

『中華全図』はあくまで China proper すなわち直省の空間を描くことを主眼にするものであり、その空間を包含するために設定された地図の外枠の中に入る範囲についてののみ outer territories が描かれている。チベットと新疆は描かれず青海と甘肅も西端が切れている。マンチュリアは西端のみが含まれている。内モンゴルの空間は地図の枠内にかなり入り込んでいるが、地理情報はほとんどなく、しかも地図情報を記した囲みが大きくその空間を侵食している。

ただし、『最新中国商業政治地理大全』においては、中国本土十八省の分省図だけでなく the outer territories of China の地図を掲載し（19 番マンチュリア、20 番新疆、21 番モンゴリア、22 番チベット）、それらの地域についてより長い解説が記されている（pp.79-88）。こちらが載せるのは分省図のみで中国全体図は掲載されていない。

1910 年代の中国の子供たちにとっても上海の欧米人にとっても、中国といえばチャイナ・プロパーのことであって、その外側については殆ど知識がなかったのであろう。さらに海洋についての関心は低く、東沙諸島や西沙諸島の地理的情報が全く普及していなかったことは明らかであろう。

『中華全図』の 1916 年改正版（Corrected to January 1916 京都大学図書館蔵）を確認したが、地図に描かれている範囲は初版と同じであった。

Edwin J. Dingle and H.J. Fruin.1916. *The new map of China (in English and Chinese)* = 最新中華全圖 / compiled from the latest and most authentic surveys by the Far Eastern Geographical Establishment, Shanghai